

# 米国 ～20年米大統領選は接戦の様相～

経済調査部 主任エコノミスト 桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

## トランプ氏の支持率が上昇し大統領選は接戦の様相

11月の大統領選挙が近づくなか、9月初めの時点で米国では新型コロナウイルスの累計の感染者、死者数とともに世界最多となり、依然大幅な増加を続けている。しかし、トランプ大統領の支持率は上昇している。6月23日時点の支持率では、バイデン氏がトランプ大統領を10.2%ptリードしていたが、その後トランプ大統領の支持率が上昇し、9月1日には差が6.0%ptまで縮小した。フロリダ、ミシガン、ウィスコンシン、ペンシルベニア州などの激戦州においても、トランプ大統領の追い上げによって支持率差は縮小し、大統領選は接戦の様相を呈している。

8月に、民主党、共和党の全国大会がそれぞれ開催された。今回は新型コロナウイルスの影響で民主党の党大会が7月から8月に延期され、翌週に共和党の党大会が行われた。民主党の党大会は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、大部分をオンラインで行ったことで盛り上がり欠け、バイデン氏の支持率に目立った変化は見られなかった。一方、共和党の党大会は規模を縮小しながらも実際に会場に党員が集まり開催された。また、トランプ大統領はホワイトハウスで選挙活動を行わないという慣例を破り、ホワイトハウスの敷

地内にステージを設け、1千人超の支持者等を前に指名受諾演説を行った。コロナ禍にもかかわらずマスクを着用せず大勢の人が集まったが、支持層からは評価されたようだ。

トランプ大統領は、大統領候補の指名受諾演説で、「バイデン氏は穏健派に見えるが、大統領になれば社会主義的政策を行うトロイの木馬」と批判したほか、デモに伴う騒乱を「民主党は憎悪に満ちている。バイデン支持者が街頭で狂ったように叫んでいる姿を見てほしい」とデモと騒乱を民主党に関連付けた。これに対して、バイデン氏は反論したものの、トランプ大統領の支持率は上昇した。

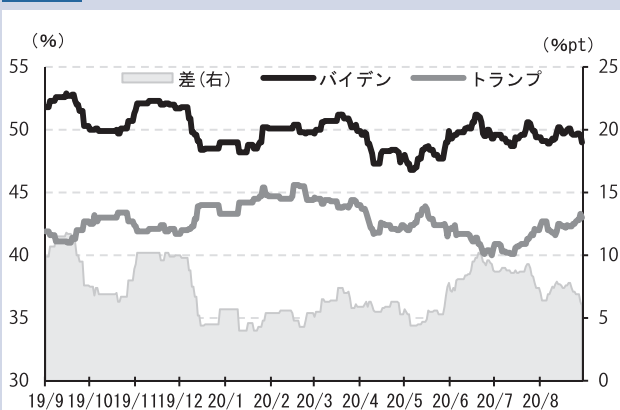
## 米国景気の改善傾向がトランプ氏にプラス

トランプ大統領の支持率を押し上げた他の要因をみると、雇用統計で非農業部門雇用者数が3、4月合計で2,216万人減少した後、5、6、7月合計で927.9万人増加したように、米国景気が5月以降回復を続けていることがある。また、S&P500やナスダック総合指数が8月に最高値を更新するなど、株式市場の好調により景気の先行き期待が高まり易くなった。さらに、議会の対立で追加経済支援策が策定されない中、大統領令により失業保険給付の上乗せ期間の延長等を行ったことも挙げられる。

8月にはウィスコンシン州ケノーシャで起きた警官による黒人銃撃を受け、抗議デモが起きた。前回の抗議デモと同様に一部のデモ参加者が破壊行為、暴力行為、放火などを行った。これらの抗議デモ参加者には民主党支持者が多いため、暴力事件が多発すると、恐怖を覚える人が安全を求め、共和党支持に向かう傾向がある。そのため、これもトランプ大統領の支持率押し上げにつながると考えられる。

このような経済情勢の改善、株高の継続などに加えて、新型コロナウイルスのワクチンが選挙前に承認される可能性もあるなど、トランプ大統領が再選に向けて勢いを維持し易い環境が続くようだ。

資料1 2020年米大統領選挙支持率(調査平均)



(出所)RCPより第一生命経済研究所作成